

## — ニュース —

### 1. 全国農薬協同組合「第 42 回安全協全国集会」を開催

全国農薬協同組合（大森 茂理事長）は、11 月 13 日午後から都内の海運クラブで全国農薬安全指導者協議会の第 42 回全国集会を開催しました。集会では前年度の事業報告と収支決算、新年度の事業計画と収支予算が審議されたのち、農薬シンポジウムや危害防止キャンペーン活動が報告されました。

この中で、活動のひとつとして 18 年前から取り組んでいる農家アンケートでは、防護装備の常時着用率を調べたところマスクが 48%である一方防除衣は 28%と低く、農薬使用に当たってラベルを必ず読む農家が 45%である一方、全く読まないと回答した農家が 12%あることなどが報告され、啓発活動の必要性が指摘されました。また、新年度の運動方針では、これまで掲げてきた方針に加え「マルチローターによる農薬散布についての正しい情報の周知」が掲げられました。

全国集会にあわせて毎年行われる特別講演では、住友化学（株）で長年農薬に携わり、現在は大日本住友製薬（株）の代表取締役会長である多田正世氏が「農薬卸業の将来～医薬卸業は参考になる？」と題し、6 つの側面から農薬と医薬を対比。変化をチャンスと捉えて対応していくことが生き残りの鍵になるとエールを送りました。

会の最後には、来賓として早川泰弘理事長らが祝辞を述べ、スローガンを唱和して閉会しました。



【挨拶する大森理事長】

## 2. 農薬工業会が金龍山浅草寺で虫供養

農薬工業会は、11月6日、東京都台東区の新龍山浅草寺で虫供養を執り行った。

虫供養は、農薬開発研究や病虫害防除効果試験により殺滅される虫を供養し、併せて業界の発展を祈願するため毎年執り行われている。今年は64回目となり、農林水産省等官庁関係者、植物防疫団体等の関係者、農薬工業会役員・会員など約90名が参列した。

## 3. 令和元年度病虫害発生予報第9号の発表 ―農林水産省―

農林水産省は、11月13日、向こう1か月の主要な病虫害の発生予察情報第9号を発表した。概要は次のとおり。

【野菜類】いちごのハダニ類の発生が、中国、四国及び北九州の一部の地域で多くなると予想される。ほ場の観察をきめ細かく行うとともに、都道府県から発表される発生予察情報等を参考に適期に防除を実施する。このほか、いちごのアブラムシ類等、病虫害が多くなると予想されている地域があるので注意する。

【果樹・茶】春の病虫害防除を効率的かつ効果的に実施するため、病虫害の越冬量を低下させ、翌春の発生を抑制することが重要。果樹の病害対策として、感染落葉や病部を除去するとともに、翌春までに園外に持ち出すか、土壌中にすきこむ等、適切に処理をする。また、虫害対策として、ハダニ類及びカイガラムシ類の発生が多かった園地では、粗皮削りやマシン油散布による防除を実施する。茶のカンザワハダニが多発した園地では、秋整枝後の薬剤散布等の防除を実施する。

【ツマジロクサヨトウ】7月3日に鹿児島県において初めて確認されて以降、複数県で確認されている。本虫の防除には早期発見が重要であり、疑わしい虫を見つけた場合は、都道府県病虫害防除所又は植物防疫所へ連絡のこと。

詳細は次の URL より：<http://www.maff.go.jp/j/press/syouan/syokubo/191113.html>